

〇一一年七月から宮城県の特鹿半島に通うことになった。

「アーキエイド」の賛同者として東日本大震災の復興支援活動に加わったのである。

法政大学の同僚である下吹越武人教授と大学研究室の枠を超えてインディペンデントスタジオを立ち上げ、スタジオの学生たちと何度も担当した「ハマ」に通い、地域（風土、歴史、生業など）について調べ、被災した浜の人々と、浜の再建築について相談した。住まいの高所移転（防災集団移転）のアドバイスにも乗ったが、平地の少ない半島部に高所移転のための平地を確保するのは至難の技で、自然地形をなんとか保全しようというアーキエイド・チームの提案は、早く安価に造成を進めたい土木コンサルや地元自治体にとって、さぞかし迷惑だったに違いない。がんばればがんばるほど堂々巡りと空回りが続き、復興支援活動の手助けをしているというよりは足を引っ張っているような事態に陥りかけていた頃、小積浜の阿部区長から津波で流出した浜のお地藏様の祠を再建してもらえないかというお話をいただいた。

海辺の、冬は強風の吹く場所に、三寸角の製材を積み上げた祠を学生たちのセルフビルドで建立したのが二〇一三年である。

その二年後、一昨年（二〇一四年）の冬に、担当していたもう一つの浜、荻浜の江刺区長からうちの浜にも祠を作ってほしいという依頼があった。今度は

各 人 各 説

二つのお地藏様プロジェクト

法政大学 デザイン工学部建築学科 教授

渡辺眞理

Makoto Watanabe



荻浜の祠・上屋全景

お地藏様も流失してしまったということだったので、多摩美術大学の尹熙倉教授の協力を得て学生たちに陶芸でお地藏様を作ってもらった。上家は二枚の大判のCLTから一四本のフレーム材を切り出して接合した。構造は佐藤淳さん（構造家・東京大学大学院教授）に見ていただき、今回もインディペンデントスタジオの学生たちのセルフビルドで、昨年末に二軒目のお地藏様の祠が荻浜に完成した。防災集団移転の宅地造成もようやく終わり、荻浜の住民たちももう少しで仮設住宅に別れを告げることができる。時季の完成である。

※「アーキエイド (Archi+Aid)」は、2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災を契機として設立された、建築家と計画設計系大学教員のネットワーク（東日本大震災における建築家による復興支援ネットワーク）の略称